

3. 中西部アフリカを対象とした幼児教育の国際協力プロジェクトの実施・インパクト評価

浜野 隆（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科）

（1）背景

ECD（Early Childhood Development）という概念が国際開発において注目されるようになってから 20 年あまりが経過した。乳幼児期は脳や知覚、社会性が発達し、初等教育を含むその後の学校生活や人生に対して大きな影響を与えることが明らかにされている。しかし、発展途上国には乳幼児期の発達支援を専門とする人材が不足しており、乳幼児の発達のための条件整備は十分ではない。国際的にはいくらかの関心が高まりつつあるものの、途上国側に十分な能力形成がされているとはいえない。

乳幼児死亡率やさまざまな健康指標から見て、最も問題が多いのはサブサハラアフリカである。本研究においては、サブサハラアフリカの中でもとりわけ乳幼児死亡率が高い中西部アフリカを対象に、行政官や視学官、教員らの能力向上のために研修員受け入れを行い、乳幼児の発達の国際格差に対する研修員の意識や態度がいかに変化していくかを明らかにすることを目的としている。研修の効果分析については、Tarumi & Hamano (2010, 2011)で論文として発表しているので、ここでは、2011 年の研修の設計と内容を紹介する。

（2）研修コースの目的

この研修コースの目的は、中西部アフリカ 4 カ国からの研修員が、保育・幼児教育や ECD に関する専門知識を身につけ、幼児の発達支援の専門家として、指導者としての能力強化を図ることである。次の 6 つの単元について、知識・技能を高めることを目標としている：

単元①：所属組織での問題点を発見・整理し、解決すべき課題を抽出する

単元②：ECD の概念・内容・動向に対する理解を深める

単元③：幼児教育における格差問題と是正策について理解を深める

単元④：子どもの発達段階に応じた適切な保育内容・保育方法について理解を深める

単元⑤：教員養成・研修のシステムに対して理解を深める

単元⑥：幼児教育における評価について理解を深める

今回参加した4か国の幼児教育はまだ普及率が低いため、今後発展の余地が大きい。そのため、研修コースも特定の領域に特化したものというよりは、制度や行政など、マクロな部分と、教授法や心理などミクロな部分とを双方組み込んでいる。本研修は2006年度より3年間実施された「中西部アフリカ地域幼児教育」の第2フェーズとして2009年から3年間の予定で実施する研修の3年目に当たる。

(3) 研修参加者

研修の対象者は、4カ国それぞれの国において現在指導的な立場に立っている（あるいは将来指導的な立場に立つと思われる）行政官、視学官、教員養成校の教授、幼稚園等の園長・施設長である。帰国後、参加者たちは、研修で学んだことを自国の幼児教育関係者に伝達し、それをもとに自国の幼児教育の改善のために新たな試みを行うことになっており、日本での研修終了後およそ6ヶ月後にその進捗報告を行うことが義務付けられている。参加者が日本で得た幼児教育・ECDに関する専門知識・経験を自国に持ち帰り、所属組織及び他関係者へのフィードバックを通して、自国の幼児教育・ECDの改善に貢献することが期待されている。

(4) 内容

研修期間はおおよそ3週間半であり、主に講義、視察、ワークショップ（製作を含む）、発表（発表準備も含む）、振り返り、などから構成されている。その配分は、講義が全体の約30%、視察が約30%、ワークショップが約10%、発表が約20%、振り返りが約10%といった配分である。昨年度の研修に比べ、講義の比率がやや少なくなり、視察が相対的に増加した。これは、今年度の研修においては教員養成を重視しているため、教員養成を行っている大学への訪問、教員養成大学の学生とのディスカッションなどが増加したためである。また、昨年度との比較でいえば、今年は振り返り（reflection）の時間を多くして、それまでの研修内容に関する質疑応答を行ったり、理解が十分できなかった部分に関して補足説明をしたり、講義や視察の内容を整理したり、自国の状況の改善にいかに関結びつけるかを考えたりする時間を確保した。また、今回の研修では、東京を遠く離れ、首都圏以外の保育の状況を視察するため、静岡県の浜松市に移動し、保育所や幼稚園、社会福祉施設、教員養成大学の視察をおこなった。単元目標ごとのカリキュラムの構成は下の表のようになっている。

表 単元目標ごとのカリキュラム構成

到達目標	主要研修項目	研修方法	研修内容	時間数
目標 1	所属組織での問題点を発見・整理し、解決すべき課題を抽出する	発表・意見交換	インセプションレポート発表	6.25
		発表・意見交換	インテリムレポート発表	6.5
目標 2	ECD の概念・内容・動向に対する理解を深める	講義	ECD の概念と国際動向	3
		講義	NGO による ECCD 事業の経験と知見	2.5
		視察	学芸大子ども未来プロジェクト	2.5
		講義	幼児教育の評価手法・評価指標：格差の視点	2
		講義	乳幼児の発達と母子保健・衛生管理	2.5
		視察	子ども園見学（保育園・幼稚園の実際）	1.5
		視察	保育園見学（乳児保育・幼児保育・子育て支援の実際）	1
		視察	無認可保育園見学（認証保育園の実際）	1
		ディスカッション	幼児保育の比較、協力隊との連携	1.5
目標 3	幼児教育における格差問題と是正策について理解を深める	講義	日本の幼児教育概要	1.5
		講義	幼児教育の評価手法・評価指標：格差の視点	2
		視察	オリエンテーション	1

		視察	学内視察見学	1
		講義	基礎教育と住民参加	2.5
		視察	無認可保育園見学（認証保育園の実際）	1
		視察	障害児通所施設（就学前幼児のデイサービス）	1
		視察	障害児の保育	2
目標 4	子どもの発達段階に応じた適切な保育内容・保育方法について理解を深める	講義	子ども中心の保育・幼児教育	2
		視察	日本の幼児教育の理念と方法	2.5
		視察	日本の幼児教育	2.5
		視察	学芸大子ども未来プロジェクト	2.5
		講義 見学	万国共通「遊びのワークショップ」	2
		ワークショップ	手作りおもちゃワークショップ	2.5
		視察	学内視察見学	1
		ワークショップ	ワークショップ（子ども中心の保育：乳児期の関わりを通して）	1.5
		見学	幼稚園見学（子ども中心の保育）	1.5
		視察	オリエンテーション	1
		ワークショップ	ワークショップ（子ども中心の保育・幼児期の関わりを通して）	2
		ディスカッション	学生との交流（領域人間関係かかるディスカッション）	1
			お茶の水女子大学の学生との交流	1.5
		視察	幼児教育と初等教育の連携	2
		視察	日本の幼稚園と保育所	2.5
ワークショップ 講義	遊びを通して学ぶ	7		

目標 5	教員養成・研修のシステムに対して理解を深める	講義	日本の幼児教育概要	1.5
		講義	子ども中心の保育・幼児教育	2
		視察	日本の幼児教育の理念と方法	2.5
		視察	日本の幼児教育	2.5
		視察	オリエンテーション	1
		視察	学内視察見学	1
		ワークショップ	ワークショップ（子ども中心の保育：乳児期の関わりを通して）	1.5
		ワークショップ	ワークショップ（子ども中心の保育・幼児期の関わりを通して）	2
		ディスカッション	学生との交流（領域人間関係かかるディスカッション）	1
目標 6	幼児教育における評価について理解を深める	講義	子ども中心の保育・幼児教育	2
		講義	幼児教育における評価：子どものQOL	2.5
		講義	幼児教育の評価手法・評価指標：格差の視点	2
		視察	日本の幼児教育の理念と方法	2.5
		視察	幼児教育と初等教育の連携	2
		視察	日本の幼稚園と保育所	2.5
最終目標	日本での研修成果を自国の幼児教育に活用・反映・普及させる	意見交換	振り返りおよびテキスト作成	8.5
		意見交換	研修のまとめ・ディスカッション	2.5
		執筆	インテリムレポート作成	3.0
		発表	インテリムレポート発表	6.5
		意見交換	総括	1